

# 「絵本の扱いを通して」 —教師の姿から物の大切さを感じる—

東京都文京区立千駄木幼稚園園長 徳永静江

事例の 位置付け	実施学年	3年保育3歳児
	教科等	
	単元名	絵本を大切に扱おう。

### ねらい

- 1 自分の好きな絵本を見たり、話を聞いたりすることができるようになる。
- 2 教師が読む絵本や紙芝居を、興味をもって見たり聞いたりする態度をはぐくむ。
- 3 絵本を大切に扱うことを知り、自分から行うことができるようになる。

### 展開の特色

- 1 3歳児は、この時期の集団生活のなかでは、幼稚園で共同で使う物と自分の物との分別や、友達の物との分別がつきにくい状況がある。
- 2 学級のなかで、教師の話静静地に聞く習慣は身につけていないが、絵本や紙芝居などの視聴覚教材を活用することで、少しずつ見たり聞いたりする態度がはぐくまれる。
- 3 絵本や紙芝居は、3歳児の興味・関心に即した簡潔な内容であること、絵が丁寧に描かれ、色彩がきれいであることなどを踏まえて選択する。
- 4 3歳児は、自分の興味のある絵本を友達と取り合ったり、投げたりして乱暴に扱うことが多く見られる。そのため、教師は繰り返し丁寧に扱うことを指導する。
- 5 生活のなかで特に絵本は、他の遊具や玩具とは違う物であることを、場面をとらえて具体的に知らせていく。
- 6 3歳児は、教師が示す言動の一つ一つが、幼児のモデルとなって伝わっていくため、教師としての役割を適切に果たしていくことが大切である。

### 構成

- 第1次 降園時の身支度に個人差があるため、身支度が終わった幼児は、その間、絵本を見ながらみんなが揃うのを待つようにする。  
全員揃ったところで、教師が紙芝居を読むため、絵本を片づけるように促す。
- 第2次 教師は紙芝居を読む雰囲気をつくる。

### 本時の展開

降園時、帰り支度をしてから学級のみんが椅子に座って集まる。身支度にかかる時間に個人差があるため、教師は、まだ支度ができていない幼児の援助をしている。その間、幼児は自分の好きな絵本を選び、静かに見ている。

教師は、以前に手に持っている絵本を教師に投げて渡したり、本棚に乱雑に置いたりしている姿を見かけたので、絵本の扱い方を知らせたいと考えていた。全員が身支度を終え、椅子に座ると教師は、「これから、紙芝居が始まるから、みんなで見ようね。今、見ている本を先生に渡してね」と声をかける。

教師が両手を差し出すと、A児は、ゆっくりと教師の手のひらに自分が持っていた絵本を渡す。続いてB児も両手で教師に絵本を渡す。「上手に渡せたね。これなら絵本が破けたりしなくていいね」と言いながら、一人一人から絵本を受け取る。



### その他 — 考察

- 1 幼児が経験していること
  - ・教師に認められたことでうれしさを感じたり、絵本を丁寧に扱うことは、大切なことと感じたりしている。
  - ・他の幼児が、教師に絵本を手渡す様子を見て、自分もまねている。
- 2 環境構成
  - ・教師と一人一人の幼児のかかわりが、他の幼児にとっては、絵本の扱い方を学ぶ大切な環境となっている。
  - ・みんなが見える落ち着いた雰囲気のなかでのやり取りが、個々の幼児の気づきを促している。
- 3 教師の援助
  - ・教師が両手を差し出して、ゆっくりと一人一人から、絵本を受け取るしぐさをしたことや、両手で渡した幼児の姿を認める言葉から、幼児が丁寧に絵本を手渡そうとする気持ちを引き出している。
- 4 金銭教育を進めていくための視点
  - ・教師がモデルとなるように、教師自身が身近な物を大切に扱う姿を、繰り返し示す。
  - ・幼児が物を大切に扱っている姿を、教師が言葉に出して認めることで、物を大切に扱う大事さを伝えていく。また、必要に応じて、学級全体の場などでそのような姿を取り上げ、他の幼児の刺激や気づきとなるようにしていくことが大切である。